



学校だより

令和5年 11月 29日
No. 7 12月号
横浜市立瀬谷第二小学校
校長 山崎 由美

学校教育目標

友情わく かわく 希望わく 毎日わくわくする学校



いい親って

校長 山崎 由美

教育現場に携わっていると保護者の方から「先生、どうしたらいい親になれますか。」と聞かれることがあります。残念ながら“いい親”になるための正解はありません。子どもの個性もそれぞれですし、育つ環境も違う中でこうしたら良いという答えはないのです。しかし、そういう気持ちをもつことは子どもを理解したいということに繋がるので決して悪いことではありません。難しいのは、その気持ちをどう表現するかです。

様々な書籍を読む中で、子どもを育てるうえで大切にしたいと思う共通点があります。それは、子どもをコントロールしようという意識を持ちすぎないこと（過干渉）と無関心です。私たち大人がすべきことは、子どもが自分の力で歩き、転んでも自分の力で立ち上がれる力をつけさせることです。そして、ちゃんと自分で立ち上がれることを信じること。そう考えると、子どもの頃にそういう経験をたくさんさせるのが大事だということがわかんと思います。

先日読んだ「子どもの考える力を伸ばす教科書（大和書房）」という本の中に「自律サポート型子育て」と「コントロール型子育て」という2つのワードが出てきました。「自律サポート型」は自分の意思や判断で自分からやろうとするのをサポートすることで「コントロール型」は子どものためと思い「ああできるように」「こうできるように」と行動や考えに逐一口をはさむことと書かれています。必要な指導のつもりでも、子どもに精神的なプレッシャーがかかり、言われたようにすればよいと思わない習慣がついてしまいます。親がなんでも口をはさみ、決めてしまうと子どもの可能性を奪ってしまいます。これがコントロール型の大きな弊害です。

アメリカインディアンの子育て四訓にも「赤子は肌を離すな、幼児は手を離すな、少年は目を離すな、そして青年は心を離すな」という言葉があります。子どもの成長に合わせて親子の距離を考えることが大切だということです。

「親」という漢字は、木の上に立って見ると書きます。それくらいの距離で子どものことをしっかり見て、困っている時にそばに行くのが「親」であるということなのではないかと思えます。いい親でありたいと力を入れすぎず、親も子育てを通して成長していこう。そんな気持ちでよいのだと思えます。

12月下旬から冬休みに入ります。家族で過ごす時間が増えるご家庭も多いかと思えます。子どもが自分の意思や判断でやりたいと思う気持ちをサポートしてください。年明け、たくさんの“やりたい”にトライをした子どもたちに会うのを楽しみにしています。

今年も本校の教育活動にたくさんのご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。

☆瀬谷第二小学校ホームページに、日々の学校の様子を、「わくわくレポート」として不定期でアップしています。合わせてご覧ください。

